

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度(平成31年度)	科目名	固定方法	
科目基礎情報					
開設学科	柔道整復科	コース名		開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	15時間
単位数	1単位	授業形態	講義		
教科書/教材	教科書(包帯固定学 一般社団法人 全国柔道整復学校協会 監修一)に準拠する。				
担当教員情報					
担当教員	後藤 晃弘・青木 伊之・有山 敦士		実務経験の有無・職種	有・柔道整復師	
学習目的					
<p>巻軸包帯で骨折等の整復位をいかに保持するのの研究、患部を毎日診察し、腫脹の状況によって包帯を調整したり、緩まない包帯、腫脹に対応できる包帯はどのようなものか、洗った包帯を使用すること、包帯の巻き替えの工夫、患部の肢位の確保と転倒防止の配慮等々、先人たちの創意工夫が込められている学問である。この科目では、柔道整復師の施術の方法である固定法の理論を理解し、包帯の走行を一つ一つ理解していく。また、軟性固定材料などを用いた場合にどういった包帯の方法を使用した方が最適なのかを習得することが目的である。</p>					
到達目標					
<p>多くの場合、巻き始めや巻き終わりに使う環行帯や第1行に第2行を1/2から2/3重ねて走行する螺旋帯、第1行と第2行の間に間隔をあけて螺旋状に巻いていく蛇行帯、包帯の走行を変更する場合や太さが一定でない部位を巻くときに使用する折転帯、主に屈伸運動を行う関節に用いられる亀甲帯といった基本包帯法の走行を理解するし、怪我一つ一つに対してどの固定法を選択していくか、どの固定材料を選択していくかという方法論を習得することを到達目標とする。</p>					
教育方法等					
授業概要	この固定方法とは柔道整復師の行う施術法の中含まれ、患部の安静を図る、再転位を防止するなどの手段の選択と固定を実施する方法、太さの違う場所に巻くためにどのような方法選択すればきれいにきつ過ぎず、ゆる過ぎず固定ができるかを理解する学問である。授業形態は、主に座学中心で固定方法では包帯に関する基礎知識から固定材料の基礎知識を学び、基本包帯法の基礎となる技術をどのように選択していくかを習得する。				
注意点	学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める(詳しくは、最初の授業で説明)。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備考		
	試験・課題	100%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表(口頭・実技) 平常点	0%			
授業計画(1回~15回)					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	授業概要の説明 巻軸包帯について	巻軸包帯について裂になぜわかれていたのかを理解する。			
2回	巻き方と注意事項 固定の目的	なぜ固定を行わなければならないのか、順巻き、逆巻きと表巻き、裏巻きの違いを理解する。			
3回	固定の範囲 固定の肢位	機能的肢位を理解し、範囲に関し、なぜ年齢などで違があるのかということを理解する。			
4回	基本包帯法(1)	基本包帯法(環行帯、螺旋帯)の走行を理解する。			
5回	基本包帯法(2)	基本包帯法(蛇行帯、折転帯)の走行を理解する。			
6回	基本包帯法(3)	基本包帯法(亀甲帯)の走行を理解する。			
7回	基本包帯法(4)	基本包帯法(麦穂帯)の走行を理解する。			
8回	振り返り(1)	1回~7回までの振り返り			
9回	部位での基本包帯法(1)	足関節の麦穂帯、亀甲帯の走行を全体的に圧をかけるためにどのように巻いていくかを理解する。			
10回	部位での基本包帯法(2)	下腿や肩関節の麦穂帯の走行を全体的に圧をかけるためにどのように巻いていくかを理解する。			
11回	部位での基本包帯法(3)	膝関節の亀甲帯の走行を全体的に圧をかけるためにどのように巻いていくかを理解する。			
12回	軟性固定材料(1)	厚紙副子の必要な知識や各部位で施行するためにどのように裁断すると最適なのかを理解する。			
13回	軟性固定材料(2)	厚紙副子を太さの違う部位に施行するためにどのように裁断すると最適なのかを理解する。			
14回	硬性固定材料	クラーメル副子を太さの違う部位に施行するためにどのように加工すると最適なのかを理解する			
15回	振り返り(2)	9回~14回までの振り返り			